



連協道路ニュース

発行 横浜環状道路(圏央道)対策連絡協議会 事務局
Tel 090-4825-7174 <http://renkyoueditor.web.fc2.com/>
Mail: renkyoueditor@mail.goo.ne.jp

第366号

(創刊 1988.12.14)

2020.03.01.

続報 横浜環状道路（圏央道）事業評価監視委員会の評価推移

1月17日に国交省・関東地方整備局で行われた横浜環状道路（圏央道）（以下、「横環南」）の第5回事業評価監視委員会の審議概要については前号記載のとおりである。今回はその続報として本事業の当初計画から今日までの事業の評価を時系列に見ることにした。

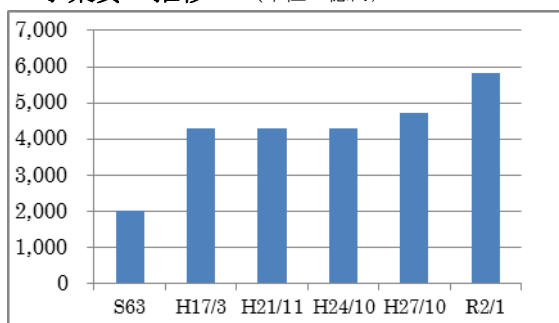
下表は事業費等の推移である。

事業費等の推移（注:S63は都市計画決定時）

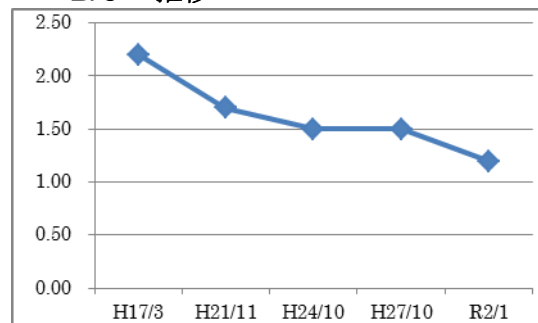
事業評価監視委員会 開催年月	S63 1988年	H17/3 2005年	H21/11 2009年	H24/10 2012年	H27/10 2015年	R2/1 2020年
供用開始予定	1997年度	2013年度	2016年度	2020年度	2020年度	2025年度
事業費（億円）	2,000	4,300	4,300	4,300	4,720	5,820
B/C	—	2.2	1.7	1.5	1.5	1.2
交通量（台/日）	66,000	47,300～ 55,100	44,200～ 50,300	13,800～ 60,600	12,900～ 59,400	12,500～ 57,900

この表の中で注目すべきは事業費の推移で、当初計画事業費と現在を比較すると2.9倍に膨れ上がっていることである。事業費の増額は自治体の負担が増加することでもあり、直接私たちに関係する。「公共事業は始まったら止まらない」と言われる所以で横環南も例外ではないと言える。そして事業費が増加する事と反比例して減少に転じるのが、費用対効果のB/C（便益と費用）である。「今後費用が増加することで1を切るようなことがあってはならない。」との意見が出された。費用については引き続きコスト削減に努めるとともに、今回事業費増となった要因を分析し、今後、コスト管理の徹底に努めるよう指摘があった。その舌の根が乾く前にイタチ川護岸工事など想定外の工事が発生しておりまだまだ予断を許さない状況である。今後とも厳しく見守っていきましょう。

事業費の推移（単位：億円）



B/Cの推移



次に供用開始予定だが、1988年の当初計画では1997年度供用予定としていたが、私たち沿線住民の運動により度々供用年度変更を余儀なくされ、近年では東京五輪の年度末を目途としていた。しかし工事の安全な施工等見直し検討が必要な箇所が複数出てきたため、先の評価委員会では2025年度の供用に変更されたのである。

以上が評価委員会の評価推移であるが、今後とも連協では【付帯意見】にあるように当局と地域住民との十分な対話を基礎に、環境対策や安全対策に積極的に取り組ませることを要求していくものである。

(副会長 高村信夫)

庄戸トンネル見学会

2月12日、庄戸トンネルの見学会が行われた。庄戸三丁目などから22名の参加があり、午後3時に庄戸商店街前に集合した。

NEXCOが用意したヘルメット、マスク、ベスト、長靴、などを装着し、バスに乗り込んだ。バスは、4号線経由で、神戸橋の防音ハウスに到着した。防音ハウス内は、前回(平成30年)見学時とは、全く様相が違っていた。前は、Cランプトンネルだけが口を開け、建材製造のバッチャープラントが設置されていた。今回は、そのプラントは撤去され、Cランプトンネルと同じサイズの新しいトンネル(底部導坑)が2つ、合計3つの大きなトンネルが口を開けていた。



1つの底部導坑は、庄戸交番下ほどまで掘進んでいて、先端ではツインヘッダーという掘削機が、前面の壁を“サラサラ”と削っていた。トンネル掘削現場と言えば、「退避!」、「発破!」、怒鳴り声、ガラガラという岩が崩れる音などが浮かんで来るが、実際は清潔、静か、安全で拍子抜けである。

2本の底部導坑は、庄戸四丁目の低土被り区間であり、難工事が予想されている。底部導坑の上部に更に導坑を掘削し、外側を支えているU字型のH型鋼を外して、最終的には、四角い巨大なコンクリートの箱となり、本線トンネルとなる。

続いて、Cランプトンネルを通過して旧庄戸中学校脇の地下に到着した。そこは、部分的に本線トンネルのサイズに拡幅された巨大な空間であった。全幅21m、高さ

11m(この後4m掘り下げる予定)の横環南線の下り線である。断面積は約150㎡である。この隣に同じサイズの上り線トンネルが掘られる。合計300㎡となる。この拡幅部は、多数の幅30cmのH型鋼を支保鋼として支えられている。最終的には、この上に80cmのコンクリートが吹きつけられる(下記写真)。写真で右手奥には、出入り口があり、隣接する上り線トンネルに繋がる。今後は、この出入り口から上り線トンネルの掘削が始まる。



貸与された長靴を履いていたが、トンネル内部は、乾いている感じで、コンクリートの壁に沁みが残されている程度であった。庄戸の地下水は、遊水地への流入量は、約500ℓ/分程度、いたち川への流入は、約50ℓ/分程度である。聞けば、トンネル全体からの湧水量は、50ℓ/分程度との事で、湧水が多いとは言えない様である。NEXCOの後日の説明会において、庄戸の地盤水準、地下水位の調査結果が発表されたが、地盤変動は極めて小さい様である。

今後、引き続き、庄戸の地盤水準、地下水位の計測結果を検討し、トンネルの内外の状況を注視していきたい。(庄戸 田中)

対外活動報告

02/08 川崎公害病患者会学習会&新春の集い(武蔵小杉、1名参加)

02/13 第5回神奈川共同行動実行委員会(神奈川労連会館、事務局長参加)

02/13 石木ダム強制収用を許さない東京行動(衆院議員会館、比留間会長参加)

02/22 イタチ川護岸改修工事説明会(NEXCO現場事務所、会長、直前に中止される)